

○ 2月3日付け文書のご質問に対する回答（3月16日作成版）

Q1 なぜ避難用ボートだから転覆しないと思ったのですか。避難用ボートは転覆しないというのは、誰の認識ですか。

A1 下見（22/4/7）のとき、教員が所員の説明の中で聞き、それを信じたということです。どんなボートも100%転覆しないと思っているわけではありませんが、「カッターボートは救助用に使われており、安全である」という所員の説明からその安全性を認識しました。

Q2 どうして雷以外の気象変更による中止判断や、その連絡、協議決定、訓練中のコース変更への対応、自主艇のスキルや転覆についての議論がなかったのか。どのような状況で、何時間ぐらい下見をしたのか。さらに下見の項目をもっと詳しく知りたい。

A2 前年度実施しているのので、上記の事項についての基礎的な確認はできていたと考えています。

本年度になってからの下見は、4/7（水）14:30～16:40 頃まで三ヶ日青年の家およびその周辺施設にて実施しました。そこでは、主に生徒の活動を想定して、施設の状況把握を中心に、青年の家スタッフと打ち合わせを行いました。特に、カッター訓練に関することについては、次のとおりです。

- (1) グループの作り方；4つのグループ分けは学校に一任する。乗船席について重さが概ね均等になるようにする
- (2) 人員配置；教員の割り振りは、1人艇2、2人艇2の6人を決める。陸にも1人は配置する
- (3) やっておくこと；生徒の座席位置を決める。体力が均等になるように配慮する
- (4) 雨の場合；雨でも実施。あまりにもひどい場合は、屋内活動に変更する
- (5) 事故想定；雷、落水、櫂に手をはさむ、座礁、漂流
- (6) 外の施設の見学；マリーナ（ハーバー）、艇庫など

Q3 どうして「昨年と同じなので安心してください」との言葉だけを信じて、変更に対する危機予測をしなかったのか、できなかったのか、もう一度調べてほしい。

A3 相手が施設の管理者であり、その言葉を受けたということです。自然体験の学習内容は前年度と同じであり、所員の中に前年度からの継続勤務者もいて、前年度からの引継ぎはきちんと行われていると言われていたし、そう受け止めました。

また、民間委託されたとはいえ、あくまでも静岡県が主導しており、そのことで安全対策を含めた管理・運営が十分でないとは考えませんでした。

Q4 無線指示だけで、湖面のボートを的確に操られると思いましたか。思ったとしたら、それはどうしてでしょうか。また、C艇だけに「アンカーを下ろして待機」の指示がなかった原因はどこにあったか。

A4 所員（キャプテン）からの指示でもあり、専門家の無線による指示に従って行くことについて、これまで数多くの団体がこの規定に従って活動を実施してきた実績に、疑問を感じていませんでした。

各艇に「アンカーをおろせ」の指示が出たのは、C艇が曳航、転覆した後であります。



Q5 「これぐらいなら大丈夫」の所員の判断に、まったく不安はなかったのでしょうか。不安がなかったとしたら、それはどうしてでしょうか。

A5 もともと降雨は中止をする基準にはありません。そして、判断をしているのがこれまで実施してきた施設の管理者であったので不安は抱きませんでした。

Q6 嫌がる生徒は怖がっていたのではないのでしょうか。だとしたら、どうして「強行」ではなく、予定通りと言えるのでしょうか。どうして中止する判断にはならなかったのでしょうか。

A6 出発の時点で雨を嫌がる生徒はいましたが、怖がっていたとは認識しておりません。また、所員も教員も目視により、風、波ともに出ていないことを確認するとともに、天候が急変した場合は引き返すことが確認されており、その時点では中止する判断にはなりませんでした。

Q7 校長が、なぜ自ら協議を申し込まなかったのでしょうか。校長は事前の資料を読んでいなかったのでしょうか。

A7 このことについては、前回の文書で述べているとおり、事前に資料は読んでいましたので、協議を申し出る状況（天候）になかったという認識です。

Q8 なぜ生徒の安否情報入手の手段として、携帯などの情報共有を持たなかったのでしょうか。使わなかったのでしょうか。また、誰が生徒安否の情報を管理していたのでしょうか。やるべきなののでしょうか。消防からの全員救助の情報に、引率の先生方は誰も人数確認ができなかったのでしょうか。それは、どうしてなのでしょう。

A8 乗船時、携帯電話を青年の家（活動本部）に置いていて、その後も取りに行く余裕はありませんでした。

生徒の安否情報は救助本部の消防と警察が中心になって管理しておりました。前回の文書のとおり、現場の混乱の中で情報が錯綜し、学校側が全員の状況把握をすることは遅くなってしまいました。

また、消防から「全員救助」の報が出された経緯はわかりません。ただ、「全員救助」の報は、消防から学校に直接もたらされたものであります。

Q9 校長は、なぜ救助本部が移った情報が得られなかったのでしょうか。警察や消防との事情聴取のやり取りはどのような内容だったのでしょうか。15:30から18:47の間に、校長と所員、警察、消防との間にどのような情報のやり取りがあったのでしょうか。

A9 救助本部の設置を活動責任者の校長に、警察や消防から伝わらなかった経緯はわかりません。警察も消防も校長には知らせていなかったようです。

また、警察や消防との事情聴取のやり取りの内容は、校長が病氣療養中のため聞き取りができません。

Q10 今回の事故は、学校関係者も含め、危険を予測できなかったことから起きてしまったようですが、二度とこのような事故を起こさないためには、どうしたら予測できると思いますか。（特に計画や下見、出航前の段階で）

A10 「今回の事故が、学校関係者も含め、危険を予測できなかったことから起きてし

まった」ということについては、事故に関する責任の所在、事故の要因解明について、静岡県警察および国土交通省運輸安全委員会（事故調査委員会）の判断を待つ必要があると考えております。

また、二度とこのような事故を起こさないために、先回お渡した文書にまとめております。

Q11 校長は、事故以前から、うつ状態などの症状が出ていたのではないのでしょうか。

A11 そのような認識はありません。

Q12 章南中の野外活動の実施時間は、どうして梅雨時なのでしょう。誰がどのような基準で日程を決めたのでしょうか。

A12 年度当初の「学級づくり」の時期が適切であると考えており、当初5月上旬を希望していましたが、予約希望団体が多く、三ヶ日青年の家の方で調整を行い6月の中旬になったとのことであります。

Q13 市や学校がどこまで係われば、二度とこのような事故が起きないと思いますか。

A13 先回渡した文書にまとめている通りであります。

Q14 「不良品を買わされた」とはどういう意味でしょうか。誰が誰から何をいくらで買ったのでしょうか。（静岡、小プロ、豊橋の関係は？）

A14 いつの、誰の言葉をさしているか不明であり回答が困難です。 →

Q15 先回お願いした、回答と報告書の公表についての進捗を教えてください。

A15 年度内の報告書の公表のために、報告書の完成を急いでいるところであります。また、現時点では請願の回答等の公表は考えておりません。 →